

【エピソード】

通勤通学の乗客で混雑している、バスの中でのある朝の出来事です。  
私は運転手のすぐ後ろの席に座っていました。バスは、県庁前のバス停で止まりました。

運 転 手：「県庁前～。県庁前です。」

大勢の乗客が、一斉に席から立ち上がり並び始めました。すると、私のすぐ横に座っていたおじいさんが、座席や手すりをつかみながらゆっくりと立ち上がり、列の先頭に立つと、料金表をじっと見ていました。しばらくして、運転手に整理券を見せながら尋ねます。

おじいさん：「えーと、ここで降りたいのですが、いくらお支払いすればいいんですか。」

運 転 手：「ああ、180円ですね。」

おじいさん：「分かりました。」

おじいさんは、財布から180円を取り出そうとしますが、なかなか取り出せず、時間がかかっていました。バスから降りようとしていた乗客は、はじめ黙っていましたが、おじいさんの様子を見て、ひそひそ話を始めました。

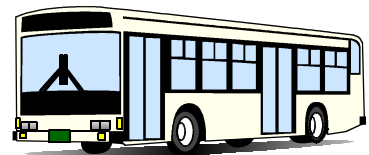
乗 客 A：「早くできないんですかね。」

乗 客 B：「そんなの、はじめから準備しておけばいいじゃないですか。」

乗 客 C：「私たちの後から、降りればよかったのに。」

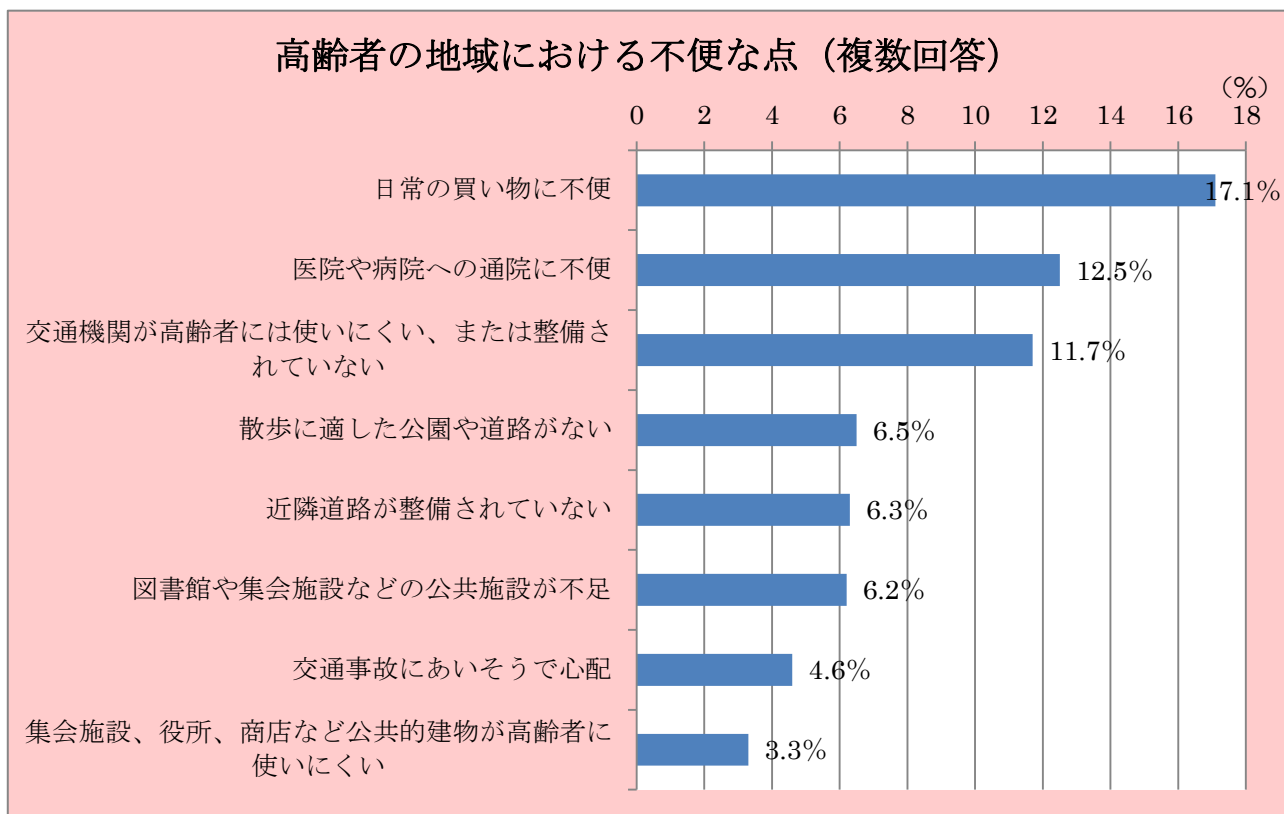
(そんな声が聞こえたのか。おじいさんは謝ります。)

おじいさん：「すみません。すみません。」



○ あなたが、エピソードの中の私だったら、謝るおじいさんを見てどうしますか。

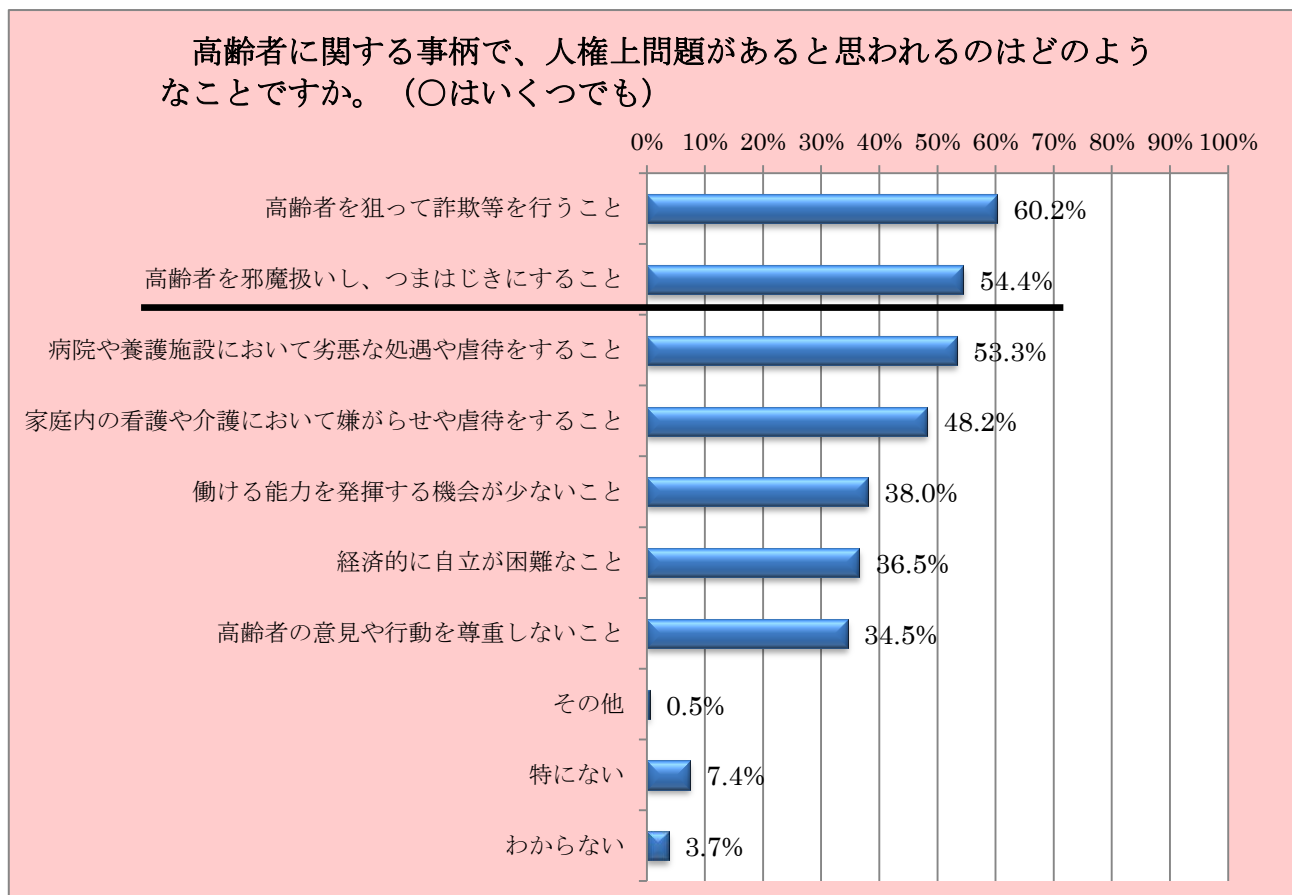
## 資料1



出典：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成 22 年度）

（注）対象は、全国 60 歳以上の男女

## 資料2



出典：栃木県「人権に関する県民意識調査」（平成 22 年度）